

学校自己評価報告書
令和5年度（2023年度）

令和6年（2024年）7月

学校法人電波学園
東海工業専門学校熱田校

学校評価委員会

委員長	水谷 隆之（校長）
総括責任者	杉本 康善（科長）
副委員長	小木曾 吉朗（事務長）
委員	白石 浩一（教務主任）
	橋本 浩二（指導主任）
	近藤 豊（校務主任）
	木村 篤（情報管理設備責任者）
	高須 泰彰（機械科主任）

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標	P 2
	校訓・誓いの言葉・学習五訓・生活五訓	P 3
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 4
	(1) 教育理念・目標	P 4
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5
	(4) 教育成果	P 6
	(5) 生徒指導・生徒支援	P 8
	(6) 教育環境	P 9
	(7) 生徒の受入募集	P 9
	(8) 財務	P 10
	(9) 法令等の遵守	P 10
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 11
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 11

I 学校の現況

(1) 学校名

東海工業専門学校熱田校

(2) 所在地

〒456-0033 名古屋市熱田区花表町 19-14

(3) 沿革

昭和36年 本校の前身東海製図技術学校設立
昭和45年 東海工業専門学院と改称
昭和50年 東海工業専門学校と改称
昭和51年 学校教育法第82条の2に基づく専修学校として認可
昭和60年 高等課程機械科設置
昭和61年 高等課程設備科設置
平成7年 東海工業専門学校金山校開校／東海工業専門学校熱田校と改称
平成16年 東海工業専門学校金山校があいち建築デザイン専門学校と校名変更のため東海工業専門学校と改称
平成17年 高等課程建築科設置（設備科募集停止）
平成20年 東海工業専門学校から東海工業専門学校熱田校と改称
平成23年 建築科男女共学化
平成24年 機械科男女共学化

(4) 学科の構成

建築科

機械科

(5) 生徒数および教職員数

生徒数	建築科	129名
	機械科	316名
教員数	専任教員	29名
	非常勤講師	30名
職員数	専任事務職員	2名

(6) 施設の概要

1号館	3F	第1アリーナ（体育館）
	2F	普通教室・大講義室・図書室・生徒会室
	1F	校長室・職員室・事務室・保健室・生徒指導室・進路指導室 ・常設展示室・カウンセリング室・相談室・応接室
2号館	3F	コンピュータ室（第2）・多目的実習室
	1・2F	普通教室

3号館	4F	シーケンス実習室
	3F	コンピュータ室（第1）
	2F	木工加工実習室・製図室
	1F	原動機実習室・カート実習室
	地下	大工実習室・倉庫
5号館	2・3F	普通教室
	1F	普通教室・職員室
	地下	溶接実習室・トレーニング室
南館	3F	第2アリーナ（柔道場・卓球場）
	2F	金属加工室・小型旋盤実習室・小型彫刻機実習室・計測実習室
	1F	機械実習室（旋盤、万能フライス盤、立フライス盤、ボール盤、平面研削盤、火花試験機、仕上げ作業台）配管実習室

II 評価の基本方針

多くの人に本校の教育方針や学校運営を理解してもらい、反省すべき点は謙虚に受け止め、改善努力を惜しまないことが本校の責務であるとの認識から、法令や行政指導に従うことはもちろん、論理性と客観性を重視し、わかりやすい表現を心掛けることにした。

この自己点検・評価を基にして、学校全体で改善・改革に取り組み、時代に合ったより良い教育活動を行うよう努めていく。

III 教育目標

本校は“人づくり教育”を実現するため、社会の情勢、変革などを見きわめながら、本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識・技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材の育成」を、日々の学校生活の中で指導、実践している。特に、人格の向上完成を実現するため、「しつけ教育」つまり、基本的な生活習慣の確立に重点を置き、より充実した教育効果をあげるべく努力している。

そして、その教育理念を実現するために「誓いの言葉」「学習五訓」「生活五訓」の唱和を実践している。

「校 訓」

自主 友愛 壮健

「誓いの言葉」

私たちは父母のお陰で勉学する機会が与えられているから、
その期待にそむかず、一生に二度とこないこの時を無駄にすることなく
勉学と修養に励み、社会から喜ばれる人間になろう。

「学習五訓」

- 一、学園は勉強の場である
- 一、学問・技術へ情熱をもて
- 一、能力の自己啓発につとめよ
- 一、積極的に思索せよ
- 一、謙虚に学ぶ心をもて

「生活五訓」

- 一、礼儀を重んじよ
- 一、規律を守れ
- 一、心に愛をもて
- 一、顧みて前進せよ
- 一、健全な身体を造れ

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○学校における教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱 いているか	④	3	2	1
○理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生 徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
○各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応す る業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・全教職員が教育理念・目標を理解した上で、生活指導や学習指導に生かして行く必要がある。
- ・保護者、生徒に教育理念、目標などをより一層浸透させる必要がある。

② 今後の改善方策

- ・来校いただいた企業の方から意見を聞き、企業が求める人材を理解し、必要な知識・技術を持ち人柄を兼ね備えた社会から喜ばれる人材を育成する。
- ・生徒の個性を伸ばし、自信を持って行動できる人材を育成する。

③ 特記事項

- ・学校の理念、目標、特色については新入生説明会に配付する【本校の指導方針と考え方】で保護者、生徒に周知している。
- ・各教室に「建学の精神」「誓いの言葉」「学習五訓」「生活五訓」を掲示し毎朝唱和を実践するなど、社会が必要とする人物像になるための意識を高めている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化 されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1

○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

① 課題

- ・本校のホームページで在校生とその保護者や進路を検討している中学生とその保護者に対して常に新しい情報を開示できるようにする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ホームページの更新頻度を更に上げるとともに、常に新しい情報を公開できるように新たな策を講じる。

③ 特記事項

- ・年度初めに理事長より【学園の運営方針】が出され、それを受けて【学校目標】を設定し、全教職員一丸となって取り組んでいる。
- ・校内の運営組織は、【組織表】【職務分掌表】により、教務、指導、校務、事務の各部署がそれぞれの業務を遂行している。
- ・職員会議、主任会議、指導科会議が随時開催され、教職員の意思統一がなされている
- ・情報公開の面ではInstagramを配信しより広く教育活動内容を公開し、フォロワーも増えてきている。
- ・情報システムが学園全体で一元化され、効率よく業務が遂行できるようになっている。
- ・現在新しい教務システムを導入予定で、更に効率化を図っていく予定である。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携に	4	③	2	1

より、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか				
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・求人は多くいただいているが、関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携がまだ不十分な面がある。
- ・教員の指導力育成など資質向上の取り組みがやや不十分な面はある。

② 今後の改善方策

- ・企業訪問を通して積極的な企業情報の収集をし、教育活動に反映する。

③ 特記事項

- ・本校は技能連携校として高等学校卒業資格が与えられる。また、大学受験資格付与指定校でもあるため、特色あるカリキュラムが組まれている。
- ・建設専門工事業合同体験フェアに参加し、建築関連の仕事を体験した。今後もこういった機会をさらに増やしていきたい。
- ・多様化する生徒に対応するため、心理士と情報共有しながら対応し、日々スクールカウンセラー（臨床心理士）とも情報を共有しながら対応している。

（４）教育成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
○資格取得の向上が図られているか	4	③	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	③	2	1

○卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・キャリア教育（勤労観・職業観の育成）については、担任や担当者等学校関係者の指導に限られており、生徒にとってより効果的な方法を実践するべきである。
- ・資格取得の成果に関してはほぼ適切であった。今後は新しい検定にも挑戦させていきたい。

② 今後の改善方策

- ・入学後から3年次の進路選択に向け、1年次から計画的にキャリア教育をすすめる。
- ・資格取得に関しては、合格率増を目指し、効率的な補習内容を実施する。
- ・退学率抑止のため授業中の生徒の様子を把握するために今後も校内の巡回をし、日頃から気になる生徒に声掛けをしていく。また、スクールカウンセラー（臨床心理士）と担任が一体となって心のケアに一層努める。
- ・電子黒板やプロジェクターが各教室に導入され視聴覚を活用した授業が展開できている。更に生徒が勉強に親しみやすい環境を作っていく予定である。

③ 特記事項

- ・求人開拓のため、渉外担当、3年生担任で求人依頼活動を実施している。
- ・本校が推奨し取り組んでいる主な資格検定は次の通りである。受験に当たっては可能な限り、合格対策補習講座等を実施し指導にあたっている。

技能検定機械加工（普通旋盤）

技能検定機械加工（フライス盤）

技能検定機械検査（機械検査作業）

危険物取扱者（甲種・乙種・丙種）

建築積算士補

機械製図検定

基礎製図検定

初級 CAD 検定

アーク溶接特別教育

ガス溶接技能講習

自由研削砥石特別教育

フォークリフト運転特別教育

小型車両系建設機械運転特別教育

実用英語技能検定

日本漢字能力検定

日本語検定

計算技術検定
 文書デザイン検定
 情報処理技能検定（表計算）
 文章入力スピード認定試験
 アマチュア無線技士

（５）生徒指導・生徒支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○基本的生活習慣の確立のために取り組んでいるか	④	3	2	1
○進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	④	3	2	1
○生徒・保護者からの相談体制が組まれているか	④	3	2	1
○生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
○クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1

① 課題

- ・基本的生活習慣（礼儀・マナー・態度・服装・言葉遣い等）の確立に向けて更なる出席状況の改善や挨拶の励行を図る必要がある。

② 今後の改善方策

- ・本年度も遅刻者に対する生活指導を継続していく。
- ・出席が常でない生徒に対しては家庭との連絡を密に行い、必要に応じて家庭訪問を実施する。

③ 特記事項

- ・部活動は14部が活動しており、体育系9部の多くは高等学校体育連盟に加盟している。
- ・機械工作部が第8回全国高校コマ大戦刈谷場所に出場し2位という成績を収め、全日本製造業コマ大戦G1最強コマ決定戦2024に出場した。
- ・いじめ防止徹底のため、年4回の生活アンケートを実施し、早期の対応に努めている。
- ・悩みを持つ生徒・保護者の対応として、スクールカウンセラー（臨床心理士）を配備し相談体制を整えている。
- ・交通安全教育講習を実施した。
- ・卒業後も就職を斡旋するなどの支援体制が整っている。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
○防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・企業から依頼はあるが、インターンシップの実施には至っていない。

② 今後の改善方策。

- ・様々な問題がありインターンシップ、海外研修等について対応できていないが、今後は学園本部とも相談しながら対応すべきである。

③ 特記事項

- ・防災対策として、避難訓練を年1回実施。災害時のみならず校内の緊急時の対応について【危機管理マニュアル】を作成し、備えている。

(7) 生徒の受入募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○生徒募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
○学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・体験入学における内容の充実を図る必要がある。
- ・上級学校訪問、中学3年生の進路説明会の依頼が少しずつは増えているがまだ少ない。学校の認知度を更に高める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・体験入学、学校見学会の体験および説明内容を、昨年度よりも生徒の関心、興味のあるものにする。
- ・募集に関する内容を早めに案内し、体験入学・学校見学会の参加者の増、進路説明会や上級学校訪問の依頼件数が増えるようにする。

③ 特記事項

- ・学校見学会の参加者は増えたものの、入学につながらなかった。

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- ・入学生が減少しているため、収入の確保。
- ・人件費増加のため、見直し。
- ・近年の価格高騰のため、経費削減。

② 今後の改善方策

- ・入学生減による収入減が続いているが、人件費が増加傾向にあるため、授業時間数を削減できる授業内容や適正なクラス人数での運営等見直しを図る。
- ・光熱水費も増加しているため、光熱水費の削減に努める。
- ・教職員にはグループウェアの活用で、保護者・生徒に対してはスマートフォン、パソコンへ一斉送信できる連絡網サービス（きずなネット）を活用してペーパーレス化を図り経費節減に努める。

③ 特記事項

- ・監査については毎年適正に行われている。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・生徒間のSNS利用によって、学校の知らないところで個人情報がネットに流れることがあり、指導対象となる生徒が年々増えてきている。

② 今後の改善方策

- ・授業アンケート、生活（いじめ）アンケートの結果についても個人情報をも十分に配慮し精査する。
- ・SNSの利用については、新入生へのオリエンテーションや学年集会・朝礼等で注意指導を継続していく。

③ 特記事項

- ・個人情報の保護に関する法律の趣旨を尊重し、個人情報の保護に努めるとともに【個人情報の取り扱いについて】という学校方針を入学時に生徒、保護者に通知している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
○学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
○生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・生徒会のボランティア活動について安全面、費用等検討の上活動する。

② 今後の改善方策

- ・地域貢献のための校舎の貸し出しなどを検討している。

③ 特記事項

- ・災害時の地域避難場所としての指定を受け、定期的に備品の確認管理を実施している。
- ・毎年、生徒会執行部が様々なボランティア活動に参加している。
- ・地域の清掃活動は定期的にも実施している。

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識・技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材の育成」の具現化を、全教職員が一丸となって遂行することができ、評価項目及び取組状況については、ほとんどの項目で「適切」や「ほぼ適切」と評価することができた。しかしながら、今後変遷する社会情勢や多様化する生徒に対応すべく新たな課題に対し、一つひとつ積極的に取り組み、保護者や中学校の期待および、信頼をさらに築くため、今後も全教職員で一層努力する所存である。今一度、専修学校高等課程として社会のニーズ及び個性を尊重した教育をどのようにすすめていくべきかを考える必要がある。